



未来の
ために、
いま選ぼう。

2018年6月13日
イオンリテール株式会社

6月は環境月間。イオンはお客さまとともに、豊かな環境を未来へつなぎます 6/21・7/7「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に参加 6/30(土)イオンレイクタウンにて、CO₂削減を目的とする参加型イベントを実施

イオンリテールは6月21日(木/夏至の日)と7月7日(土/クールアース・デー^{※1})に「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」に参加します。店舗や事業所など約440施設(グループ合計1,600施設)で20時~22時に屋外照明の一部を消灯し、お客さまとともに温暖化をはじめとする地球環境についてあらためて考え、身近な環境保全活動を実行する契機となることを目指します。



同キャンペーンは環境省が2003年より実施しているもので、地球温暖化防止対策として、施設や家庭の照明の消灯を呼び掛けるものです。当社はその趣旨に賛同し、初年度から参加しており、本年度で16回目の参加となります。

この取り組みにより、グループ全体で約54,300kWhの電力、CO₂排出量に換算すると約28t-CO₂を削減^{※2}することができます。

イオンは「脱炭素社会」の実現に貢献すべく、本年3月に「イオン 脱炭素ビジョン2050」を策定し、店舗で排出するCO₂等については、2050年までに総量でゼロにすることを目指しています。空調、照明などの電力の使用によって発生するCO₂は、イオンの店舗や事業所運営におけるCO₂発生量の約9割を占めていることから、省エネをはじめCO₂排出削減に資する活動に引き続き積極的に取り組みます。

当社は、これからもお客さまとともに豊かな自然環境を未来につなぐ活動を続けてまいります。

※1：クールアース・デー：天の川を見ながら、地球環境の大切さを日本国民全体で再確認し、年に一度、低炭素社会への歩みを実感するとともに、家庭や職場における取り組みを推進するための日。2008年7月7日(七夕の日)に日本でG8サミット(洞爺湖サミット)が開催されたことを契機に、政府の地球温暖化対策推進本部が7月7日をクールアース・デーと決めました。

※2：『2016年度CO₂排出実績(速報値)について』 電気事業低炭素社会協議会 2018年1月31日資料より



イオンは、低炭素社会の実現に向けて政府が主導し、温暖化対策に資する製品やサービス、行動などにおける「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE(クールチョイス)」に賛同しています。「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」は同取り組みの一つでもあります。

「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」参加概要

日時：6月21日（木／夏至）・7月7日（土／クールアース・デー）

両日とも20時～22時

店舗：本州・四国の「イオン」「イオンスタイル」など、約440施設

内容：屋上看板や店舗看板などの屋外照明を消灯

（注）防犯上の理由などにより消灯不可の店舗を除く

6月30日（土）イオンレイクタウン「未来を照らす光のイベント」

《光る短冊^{※3}をつくるワークショップ》

短冊を光らせるマグネシウム電池の構造を学びながら組み立てた後、願いごとを書きます。

時 間：1回目：12：00～ 2回目：13：00～ （定員各回 20名）

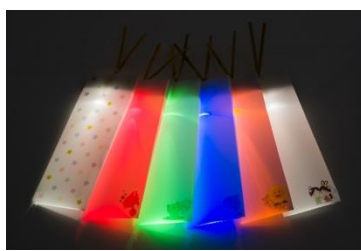
約20分（製作15分、飾り付け等、5分）

このほか10：00～、すでに完成している光る短冊に願いごとを書いて飾り付けることができます。（定員250名）

場 所：イオンレイクタウンmori 1階「水の広場」

対象年齢：6歳以上（6～8歳の参加者は保護者のサポートが必要です）

[光る短冊]



少量の水で発光



飾り付けイメージ

《LEGO®ブロック ワークショップ》

国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の世界観をレクチャー^{※4}とLEGO®ブロックによって楽しみながら体感し、一人ひとりの気づきと学びを深めるプログラムです。

時 間：1回目：15：00～ 2回目：16：00～ （定員各回 20名）

約30分（講義10分、製作20分）

場 所：イオンレイクタウンmori 1階「水の広場」

対象年齢：6歳以上（6～10歳の参加者は、保護者のサポートが必要です）



実施イメージ

※3：短冊に内蔵されているマグネシウム電池は水分に触れると発電し、内部のLED電球が一週間ほど光ります。有害物質を含まないため廃棄に手間がかからず、発電時にCO₂を排出しないなどの点から環境負荷が低いとされています。また長期間保存できる特徴を持つことから、災害などの非常用電源としての活用も期待されています。なお、イベントで使用する短冊は宮城県栗原市の企業が製作しています。

※4：年間150回以上のワークショップを主宰している、こども国連環境会議推進協会事務局長の井澤 友郭さんがレクチャーを担当。

《「イオン 脱炭素ビジョン2050」について》

イオン 脱炭素ビジョン2050

イオンは、3つの視点で温室効果ガス（以下、CO₂等）
排出削減に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献します。

[店舗]

店舗で排出するCO₂等を2050年までに総量でゼロにします。

[商品・物流]

事業の過程で発生するCO₂等をゼロにする努力を続けます。

[お客さまとともに]

すべてのお客さまとともに、脱炭素社会の実現に努めます。

【中間目標】

店舗で排出するCO₂を2030年までに総量で35%削減します。（2010年比）

2018年3月、イオンは「脱炭素社会」の実現をめざし、「イオン 脱炭素ビジョン2050」、および中間目標として2030年の温室効果ガスの排出削減目標を策定しました。

店舗で排出するCO₂等を排出総量でゼロにすることを目指すとともに、店舗をご利用くださるお客さま、商品の製造、物流等、サプライチェーン全体に関わるお取引先さまをはじめ、すべてのステークホルダーの皆さまとともに、社会の脱炭素化に取り組みます

中間目標達成にあたっては、店舗・事業所運営におけるCO₂発生源の約9割を占める電力使用について、省エネの取り組みをさらに進め、事業の成長を維持しながら総量で年1%以上の削減に挑戦します。また、これまで取り組んできた環境配慮型のモデル店舗「スマートイオン」を脱炭素の視点でさらに進化させ、標準的な店舗と比較してCO₂排出量を50%削減する「次世代スマートイオン」の開発に着手します。

こうした取り組みと合わせ、太陽光パネルの設置の推進や、外部から調達する電力を再生可能エネルギーに転換することで、CO₂排出量を削減します。